

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2017年3月号 通巻99号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2017

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

東京タヌキ探検隊！これまでの成果

実はいろいろな発見をしているのです

東京タヌキタイムズも次回で100号となります。この機会に東京タヌキ探検隊！のこれまでの成果を紹介していきましょう。

タヌキ編

●東京都23区のタヌキの分布

北西部に多く、東部に少ないことがわかりました。都心部にも意外と生息しています。

●東京都23区のタヌキの生息数

約1000頭が生息していることを推定しました。ただし生息数は減少傾向にあるようです。もしこれらのことがわかっていなかったら、「タヌキは山から降りてきた」とか「逃げたペットだ」という誤った説が今でも流布していたかもしれません。実際はタヌキは昔からの定住者であるのは間違いありません。

●タヌキの食性

フンを分析することで何を食べているかがわかります。この研究はまだ十分に進んでいませんが、生ゴミも食べているらしいことがわかっています。ちなみにハクビシンはほぼ果実食専門です。

●タヌキの運動能力

運動能力はこれまで見過ごされていた分野です。目撃情報をまとめるとタヌキは木や塀など高い所には登れません。まれに例外はありますが。

ハクビシン編

●東京都23区のハクビシンの分布

タヌキ同様に北西部に多い傾向がありますが、タヌキよりも薄く広く

分布しています。ハクビシンの方が住宅地にも進出できていることがわかります。

●東京都23区のハクビシンの生息数

タヌキよりも多いのは明らかで、約1100～約1800頭と推測しています。タヌキと違いハクビシンは近年(1990年代から)都心に進出してきた新参者です。ただし、東京タヌキ探検隊！の調査が軌道に乗った2009年には23区全域に既に行き渡っていたようです。現状が生息数のほぼ上限と考えられ、今後は爆発的な増加はないでしょう。

●ハクビシン冬眠仮説

ハクビシンが冬眠するという記述はどんな図鑑にも載っていないはずですが月別の目撃情報数からは冬に目撃が少ないことが明らかです。一部のハクビシンは冬眠しているのかもしれない、という仮説を提唱しました。

他の動物編

●アライグマ

アライグマも東京都23区に生息していることがわかりました。これは予想の範囲内です。が、推定頭数は100頭以下、どこかに偏って分布しているわけではありません。生息数が増加している兆候はありません。ハクビシンが都市進出に成功したのとは対照的です。ハクビシンが先に進出したため数を増やせないのかもしれない。

●アナグマ

東京都23区にアナグマが生息しているとは誰も気付いていなかったと

思いますが、生息が確認されました。推定生息数はアライグマより少なく数十頭程度で、絶滅寸前と言えます(日本全国では絶滅の心配なし)。

●キツネ

東京都23区での目撃例が1件だけありました。23区内での定住は現状ではさすがに難しいようです。

その他

●参加型調査の成功

インターネットを使って情報提供を呼びかけるという調査方法は今では誰でも思いつきそうなことですが、1999年に発案し実行したというのは世界的にも最も早い取り組みだったはず。今は「シチズンサイエンス」という言葉がありますが当時はありませんでした。

●アマチュアによる成果

このプロジェクトはアマチュアによるものであることも忘れてはなりません。宮本隊長は動物学の専門教育を受けていない真のアマチュアです。目撃情報提供者もほぼ皆さんが非専門家です。「科学」というと学者やプロ研究者だけがやるもの、と思われている方も多いでしょうが、専門家も大勢いるわけではありません。哺乳類だけでも世界に約5000種が散らばっているわけで、その研究にはアマチュアの参加・協力は欠かせないと言えます。

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>